

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1174300481		
法人名	有限会社 まごころ		
事業所名	グループホーム まごころ A棟		
所在地	埼玉県本庄市西富田653番地1		
自己評価作成日	令和 元年 7月 25 日	評価結果市町村受理日	令和 元年 10月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 元年 8月 28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居されている皆様にとって、居心地の良い居場所と感じて頂くことを目標に、日々の生活を支援しております。入居者一人ひとりの思いや状況を職員が把握し、ご本人やご家族の望まれる生活に少しでも近づけるようつとめています。施設内において、毎日温かい手作りの食事を提供し、楽しい食事と季節を感じて頂けるよう心掛けております。皆様が穏やかに、笑顔で安心して生活を送っていただけるように支援を続けていきたいと思っております。職員が研修、消防訓練等を通して知識や技術を高めていけるようにしたいと思っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

天窓からの光を調整した清潔感のある食堂は、利用者が思い思いの活動を楽しめる場所になっている。壁面には、利用者の達成感が感じられるよう、利用者がお花紙を丸めて作った作品が多く飾られている。利用者の思いや意向を把握するために、日ごろから様子を観察し、「いつもと違う」に気づくことを大切にしている。生活の中で役割を持ち、生きがいになるような支援を行っている。食事は専任の調理師が献立から食事作りまでを行っている。高齢化と身体能力の低下から外出があまりできない中、年間行事である、正月、節分、ひな祭り、納涼祭、お花見等は、食事が楽しめるよう工夫をし、利用者から好評を得ている。特に誕生日には、個々の希望を取り入れている。庭で収穫したナスやオクラ、モロヘイヤ、近隣から頂く白菜、じゃが芋、玉ねぎ等旬の食材も豊富である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は常に掲げてあり、いつでも誰でも確認することができます。理念に沿ったケアを実践出来るよう努めております。	理念を玄関に掲げ、常に日常生活の中で確認ができるようにしている。月1回開催するユニット会議では、職員が困った事等は、具体的に理念に立ち返り、支援方法を職員全員で共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とは良い関係を維持しています。いつも畑で採れた季節の野菜を頂き、料理して美味しく頂いています。	自治会に加入し、地域との交流を行っている。特に子ども神輿はホームの前で担いでくれるので、利用者は毎年楽しみにしている。放課後等デイサービスの生徒による踊りや劇も今後継続していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度本庄市の認知症サポーター養成講座受講者の方の見学・体験を受け入れることになりました。地域の方々に認知症やグループホームを少しでも知って頂けるようにしていきたいと思っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、近隣、ご家族に参加頂き実施しております。会議の場で様々なご意見や要望をお聞きし日々のケアに生かしていきたいと考えております。	イベントや研修と組み合わせて行う、運営推進会議には、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、近隣会社の職員、家族の参加があり、色々な意見が出ている。サービスの向上のために活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方とは日頃より電話や窓口でお話させて頂いております。運営推進会議には包括支援センターの職員の方が必ず出席して下さいます。	市職員とは、電話や直接出向いて相談し、入居の件も連絡を取っている。窓口にはパンフレットも置かせてもらっている。市主催の認知症サポーター養成講座には、管理者が講師として出向き、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	国道に近い為、玄関の施錠はご家族の了解のもと行っています。身体拘束については年4回の計画で研修実施し職員全員の理解を深めるよう努めております。	年4回、新人職員も含め、全職員が参加できるように開催をしている。利用者の動きを止める「ちょっと待って」「立たないで危ないから」等、つい口に出してしまう言葉も拘束にあたる事を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については身体拘束とともに施設内研修行い理解を深めていけるようにしています。また、職員会議などでも話し合う機会を持っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を正しく理解している職員は少数です。後見人の方と接する機会があり、色々とお話を聞くことが出来ました。研修等で理解できるようにしていきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ゆっくり時間をかけ説明おこなっています。質問にも解りやすく、丁寧な説明を心がけています。少しでも不安を軽減できるよう対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時には日頃の様子など報告させて頂いております。運営推進会議に際にも皆様のご意見やご要望をお聞きし業務に反映していけるように話し合いの機会を設けております。	面会時や運営推進会議で意見や要望を聞いている。家族の「スタッフの名前を覚えてほしい」という要望に対し、玄関に写真と名前を掲示した。面会に来られない家族には、運営推進会議の参加を呼びかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議において、職員の意見や要望を聞くことが出来ます。管理者は意見を代表者に伝える役割をしています。	業務の中でその都度、意見を聞く他、毎月行うユニット会議でも、意見や提案を聞く機会を設けている。利用者のサービスの向上のためにリフト車の必要性が認められ、購入してもらうことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与アップや有休の付与についても改善され、職員のやりがいも向上しています。資格習得のための費用や研修の費用も負担や援助行っております。職員の希望に添えるようなシフトを考慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修実施して知識の向上に努めています。実際のケアにおいては先輩職員のアドバイスや話し合いの場を設けております。外部への研修にも参加できるよう援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会員として研修等参加しています。近隣のグループホームの方々とも話しをさせて頂いています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には情報を頂き、ご家族、ご本人とお会いしてお話をさせて頂いています。ご要望や入居への不安をお聞きしてきちんと対応していくことで信頼関係を築いていきたいと考えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を傾聴し、不安を軽減していけるように解りやすく説明させて頂いています。相手の立場になり考え感じられるように努めていきたいと思ひます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のニーズをしっかりと把握することで適切な支援を提供できると思ひます。必要なケアをきちんと提供していけるように努力していきたいと思ひます。必要に応じて他のサービスも提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状況にあわせた対応を実施しています。出来ることはご自分でして頂き、出来なくなられていることをお手伝いするという気持ちで対応しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、日々の暮らしの様子や変化を月次として写真と一緒に送付しています。少しでも笑顔を増やしていきたいと考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会では、知人の方や昔の集まりの方がお見えになることもあります。入居前のかかりつけ医に通院されている方もいらっしゃいます。	近隣の方や友人の訪問は歓迎しているが、認知力の低下により、来場者が減少している。ご家族の協力を得て、自宅や買い物、ショッピングセンターに出かける等、馴染みの関係が途切れないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの方の個性や思いを配慮して、入居者間の円滑な関係を維持出来るよう全職員が心掛けております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との連携に努め、入院されてもお見舞いに伺い状況の把握に努め、ご家族の希望等お聞きし支援を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの方の思いや望まれていることに気づき対応できるよう努めています。ご自分で言葉に出来ない方の思いにも気づけるよう努力していきたいと思っております。	日頃から利用者の様子を観察し、「いつもと違う」に気づけるように努めている。言葉で表現ができない方には、今までの生活歴から推測し、生活の中で役割を見つける等、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでの状況や生活歴を把握し職員が情報を共有し、望まれる生活に近づけるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣や生活のリズムを大切にすることで、急激な環境変化の無いよう配慮しております。出来る限りご本人のご希望に添えるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意向を伺ったうえで、その方の現在の状況に合ったケアを実施するためにケアカンファレンスを行い意見を出し合い介護計画を作成しております。	本人、家族からの意向を伺い、仮のケアプランを作成し、様子を見た後、ユニット会議で職員の意見を反映させ、本プランを完成させる。毎月評価を行い、短期、長期毎に現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録、業務日誌、チェック表等を毎日記録して変化に気づけるよう情報を共有しています。申し送りを通して変化や体調について報告行いより良いケアの実施を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりのニーズの把握と状況に沿った対応に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方より畑の野菜を頂き調理して美味しく頂いています。行事に来て頂いている皆様も顔なじみになっており、演奏会等楽しまれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の定期的な往診を受けております。日頃の状態や体調不良時には報告・相談して指示を頂いています。医師の指示により他科を受診することもあります。ご家族対応にて他の医療機関を受診されている方がいらっしゃいます。	訪問診療は月一回あり、24時間緊急対応を行っている。訪問歯科は週一回、希望者は口腔ケア、治療、義歯調整を行っている。その他看護師による健康管理があり、適切な医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ですが看護師の配置があり、個々の状態の把握と医療的な処置が必要な方への処置をお願いしています。いつも相談に適切なアドバイスをさせていただきます。医師やご家族に繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、看護師や相談員と連携し適切な治療を受けて頂き早期退院に向け支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針については、入居時に口頭と文書にてご家族に説明し了承を頂いています。ご家族やご本人の意向に沿えるように出来る限りの対応に努めております。	契約時に法人の方針である、「看取りをしない」ということを説明している。利用者の状態に応じ、入退院時、及び身体状況の低下時に、家族と十分話しあい、職員と情報を共有して、利用者、家族の思いに応えられるようチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の修了者が多く在籍しています。AEDの設置もあり、使用方法等研修を行っています。職員全員があわてずに対応できるようにしていきたいと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練は消防署の方立会いにて実施しております。いつも適切なアドバイスを頂き職員と話し合いをしています。近隣の方にも協力して頂いております。	昼夜想定で年2回、避難訓練を行い、消火器、通報、避難誘導等、全職員ができるようにしている。訓練には近隣会社の職員の参加がある。災害時は建物外側にあるランプが点滅し、外部に知らせるようになっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	原則入浴は一人ずつ実施しています。また、ご家族からの要望で同性介助希望の方にも対応しております。排泄介助や失敗時にもさりげない声かけにて実施しております。	保険証類や契約書は鍵付きの書庫に保管し、パソコン内や生活記録等は情報漏えいがないよう管理をしている。プライバシー尊重の研修は定期的に行い、特に排泄や入浴時の声かけには注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の話には耳を傾け十分に聞くように心掛けております。ご自分で言葉に出して主張できない方も多くいらっしゃいます。表情などよく観察していくことで思いに気づけるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、時間でせかすことなく入浴、食事もして頂いています。レクの参加も皆様の自由にご自分のペースで参加されています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にヘアカットを受けられています。毎日ご自分で着る洋服を選んでいる方もいらっしゃいます。季節に合った服装をして頂くようにしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にとって、食事は大きな楽しみになっています。毎食、温かい食事を提供し召し上がっていただいております。誕生会の時などはご希望のメニューをお聞きしてお出して喜んで頂いております。	調理師が個々の好みや希望を取り入れながら献立を作成し調理をしている。特に誕生日には個人の希望を取り入れ、喜ばれている。近所から頂くじゃが芋や庭で採れたなす等旬の食材を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食べやすいメニューを提供しております。量や形態も個人に合わせてお出ししています。水分量は記録して適量飲んで頂くように工夫しています。ご本人の希望にも考慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた方法で口腔ケアを実施しています。ご自分で出来ない方は職員が介助して実施しています。訪問歯科で口腔ケアを受けている方もいらっしゃいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しその方に合った対応を行っています。高齢化や身体機能の低下によりトイレ介助が難しくなられた方もおります。出来る限りトイレでの排泄を促していけるように努めています。	個々のリズムや、仕草に合わせ、声かけや誘導を行い、トイレやポータブルトイレでの自立にむけた支援を行っている。立位が保持できない方や、オムツで退院してきた方もトイレ誘導し、自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表記録しています。記録を確認し水分の補給や体を動かして頂くなどしながら排便を促しています。便秘になられた時には主治医からの薬を服用して頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人ずつゆっくり入って頂いております。なかなか入浴して頂けない方もいらっしゃいますが時間をずらしたり、職員を交代したりと気持ちよく入って頂くよう努力しています。	基本週2～3回の入浴としているが、希望や状況に応じて、シャワー浴や回数を増やすことができる。入浴の嫌いな方には、時間をずらしたり、声かけを工夫し個々にそった支援をしている。同性介助も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様ご自分のペースで生活されています。居室でテレビを見られたり、お昼寝をされる方も多くなりました。夕食後ご自分のタイミングで居室に戻られ着床されます。皆様夜間は良眠されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情ファイルがあり、いつでも確認することが出来ます。体調変化や食欲不振などの時には主治医や看護師に相談して対応しております。飲み忘れや誤薬のないように注意して服薬介助行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や現在の状況に合わせて、その方に合った役割を持って頂けるよう支援しています。お手伝いをして頂くことでとても元氣になられた方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢化、身体能力の低下により外出の機会は減っております。歩行可能な方は職員と買い物等出かけております。ご家族との外出も少なくなっております。	高齢化により車いす利用者が増え、外出が減ってきてはいるが、天候と身体状況により、ベランダで日光浴をしたり、近隣への散歩に出かけている。買い物の希望は個別対応で行っている。家族と一緒に外出することを積極的に支援したいと考えている。	日常的に散歩を取り入れ、車いすを利用する方でも、今以上に、順番に戸外に出かけられるような支援を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の小遣いはご家族よりお預かりして事務所にて管理しています。個人の欲しいものの買い物に使われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より電話をかけたいとご要望があれば、対応しています。ご家族の声を聞くと安心される方もいらっしゃいます。年賀状・暑中見舞いは毎年出されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様の過ごされるホールをいつも明るく清潔に保てるよう日々心掛けております。また、安全に生活出来るように配慮しています。いつでもゆったりと過ごせるように努めています。	天窓から明るさを取り入れた食堂では、利用者同士が話をしたり、作品作りをする等、ゆったりと個々が楽しめる場所になっている。空気清浄器、冬は加湿器を置き、室温管理は職員を基準にしないよう、気を配っている。清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の好きな場所で寛げるように支援しております。それぞれにお好きな場所があるので気持ちよく過ごして頂きたいと思えます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々にご自分の好みのもを持って来られ安全に配置しております。ご自分の居場所と違って寛げるように支援しております。	エアコン、ベッド、カーテンが備え付けである。その他は、個々の馴染みの物が持ち込まれ、その方にあわせた配置を行い、安全に居心地よく過ごせる居室である。できる方は自分で掃除を行い、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアーバリアフリーになっております。トイレ、浴室、廊下も十分の広さと手すりの設置により安全な歩行が出来るようになっております。障害物もなくゆったりと生活して頂ける環境になっております。		